



# 新型コロナウイルス感染拡大下における 義肢装具サービスに関する提案

作業文書

2020年4月6日



“新型コロナウイルス感染拡大下における義肢装具サービスに関する提案”は、新型コロナウイルスパンデミック下においても、補装具を必要とする方々に対してサービス提供を継続しなければならない施設・従事者へ向けた指針を示すものです。

本提案は、義肢装具に関わる全ての人々に有益な情報であると考えますが、国ごとの管轄省あるいは行政から示されている指針を含むものではありません。したがって、最終的な判断は、本提案と地域ごとの指針とを照らし合わせ行うようにして下さい。

ISPO は、この作業文書をより良いものにするために、提案や推奨、その他の関連情報へのリンクを促し、最新の情報をその都度お伝えします。

ご意見等ございましたら [headoffice@ispoint.org](mailto:headoffice@ispoint.org) までメールを頂くか、この文書の下部に明示されている方法でお知らせ下さい。

新型コロナウイルス拡大が医療及び補装具サービスの従事者へ多大な負担をかけ続けているなか、利用者への支援を安全に継続するための努力に対し敬意を表します。

## 新型コロナウイルス感染拡大下における義肢装具サービスに関する提案

義肢装具サービスに関わる作業環境は、医療、エンジニアリング及び技術的な実践が組み合わさった特殊なものであり、この事が、義肢装具サービス従事者及び利用者への新型コロナウイルス感染予防を難しくしている一因となっています。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ唯一の方法は、隔離によって**全ての接触を避ける**ことのみです。しかしながら、医療従事者チーム内でこれを完全に回避することは極めて難しく、故に、各個人が、人や補装具に触れる時間、接触の度合いと回数を減らすことを考えなければなりません。

根拠に基づくガイドラインが存在しないなか、本文書による“提案”は、今回の新型コロナウイルス、及び過去のウイルス感染拡大における臨床現場の経験値と知見に基づくものです。ここでの提案は、国際間あるいは国・地域ごとに示されている指針に加えられるべき“行動リスト”を示すものであり、“確立された指針”に代わるものではありません。

特別な指示、指針が出ていない地域の方々のために、WHOの指針 (WHO-Coronavirus disease (COVID-19) outbreak -Protect yourself) 以外にも、欧米諸国等が示しているガイドラインがあり、これらのリンクは巻末に掲載しました。

義肢装具施設に関わる従事者、利用者、サービス提供者の人数は可能な限り減らすべきです。義肢装具施設は、本当に必要な補装具利用者への対応日以外は閉鎖されるべきであり、採型、適合等の作業が必要とされない利用者に対しては、オンラインによる診察 (テレビ会議、SKYPE, FACETIME, WHATSAP) を考えるべきです。

新型コロナの症状がある、または陽性と診断を受けた個人は自宅に待機すべきであり、それが“必要な予約”であっても、ウイルス感染の可能性のある限り延期されるべきです。

以下、新型コロナウイルス感染拡大下において、更なる感染拡大のリスクを減らす為にすべき事を提案としてまとめます。

### 始業にあたって

全ての医療従事者は、補装具に関する修理、調整等を含めた作業、また使用者に接するいかなる場合においても、WHOの定めた標準予防策 (WHO Standard Precautions) を参照すべきです。新型コロナ、その他の感染症拡大の非常事態時においては、全ての個人が最大限に地域と補装具利用者、個人を守るために、対策に従う必要があります。

従事者は、感染症拡大のリスクを減少させる為に、アメリカ疾病管理予防センター (CDC Transmission Based Precautions) の指針を順守する必要があります。WHOは、COVID-19の接触と飛沫が主な感染経路であることを報告しており、全ての従事者は、衛生のための手洗い、マスク他関連する防護装備の着用及びその手順を復唱し、これに従うべきです。

本文書に示した作業手順を整え、利用者には、義肢装具施設に到着したら連絡するよう指示し、時間まで車の中で待機させる等により待合室での待ち時間を減らすこと。また、除菌剤等を床マットや絨毯に散布し、靴からの汚染を防ぐようにしてください。

## 事務担当者について

- 施設内に入る全ての者に対し、以下のプロトコルに従うようにしてください：
  - ・ 感染の抑制効果は、全ての人々が規則を守る場合にのみ発揮されます
  - ・ 発熱、咳、息切れ、下痢等の症状が見られた場合には、如何なる理由があろうとも出勤すべきではありません
- 訪問予定が入っている全ての利用者には事前に連絡してください：
  - ・ 緊急以外の予約は全て延期されるべきです
  - ・ 義肢装具使用者、あるいは担当の義肢装具士に発熱、咳、息切れ等の症状がみられる場合は予定をキャンセルしてください
  - ・ 義肢装具使用者の健康に不安があり（例：60歳以上、免疫が十分ではない場合、糖尿病及び合併症、高血圧、心臓病、腎不全等）、しかし急を要する義肢装具の修理の場合においては、友人/家族が施設にそれを持ち込むことが可能かどうかを判断してください
- やむを得ず利用者が施設を訪れなければならない場合は、**事前**に施設内での滞在時間を最小限に抑えるための方法を講じなければなりません：
  - ・ 義肢装具使用者はできる限り一人で施設に来るか、付添いは1名以内にする
  - ・ 義肢装具使用者には、施設来訪の前に補装具を消毒しておくよう伝える
  - ・ 施設滞在時間を最短化する為に、予定時間前に施設に入らないよう伝える
  - ・ リスク管理の観点から、マスク等適切な保護具を身につけるよう伝える
  - ・ 石鹸・洗浄液等を用い、手洗いを頻繁にするよう伝える
  - ・ 握手をしないよう伝える
  - ・ 義肢装具に関する事柄以外の会話は極力避けるよう伝える
- 利用者への配慮：義肢装具外来前後
  - ・ 椅子は2メートル間隔で配置する
  - ・ 洗面所、採型・適合室、受付、待合室、ロビー等を消毒する
  - ・ 全ての使用箇所（例：机、補助棒、便器、蛇口、ドアノブ等）を消毒する
  - ・ 全従事者は義肢装具利用者とは接触する際は必ず手を洗う、または消毒すること（手洗いの場合は、石鹸をつけて約20秒間）
  - ・ 雑誌、おもちゃ等、不要なものは待合室やその他の場所に置かない
- 建物への入出時
  - ・ 新型コロナウイルスの症状の有無を利用者に再度確認する
  - ・ 徴候のある利用者には鼻と口をカバーするためのマスクを提供し、適切な装着方法を指導する
  - ・ 同じく、徴候のある利用者は建物の外で待機させ、急を要する場合以外は所定の機関（例：日本の場合は管轄の保健所）へ向かわせる
  - ・ 全員に対し手洗い、消毒を徹底させる
  - ・ 杖、車いす、義肢装具を衛生的に保つため、除菌剤等を提供する
  - ・ 来所者の署名に同じペンを使わない。あるいは、使用ごとにペンを消毒する

- ・ 待ち時間を極力減らす
- ・ 利用者には（関係のない部署には立ち寄らず）直接、義肢装具室へ向かうよう指示する
- 義肢装具利用者が**施設を利用した後も**同様に、椅子、ドアのハンドル、ドアノブ等を消毒する

### 義肢装具の製作環境下での業務について

- 当該の義肢・装具が他のスタッフの手に渡る前、あるいは施設内において他のエリアに運ばれる前に、できる限り消毒を行う
- ソーシャルディスタンス：作業環境内の従事者間の距離は2メートルを保つ
- 自身の服の上に清潔な作業着やエプロンを着用する。理想的には、使い捨ての不浸透性のガウンを使用する。
  - ・ 施設を離れる前やトイレの使用、食事の前には作業着や他の防護具を外す
  - ・ 毎日の使用後、衣類は石鹸と温水で洗濯する
- 作業や修理を実施する前に
  - ・ 道具や人と人との接触機会を制限でき、清掃が容易な環境を設定する
    - ◇ 表面素材が多孔性でない作業台を、作業者が交錯しないような場所に設置する
    - ◇ 汚れを防ぐため、作業台周辺にある不要な工具、機器、材料又はコンポーネントは排除する
  - ・ 除菌が容易な共有工具を配置し、毎使用後すべてを洗浄する
    - ◇ 多孔性でない持ち手の付いた作業用道具の使用が推奨される（木製や摩耗した持ち手の工具使用は避ける）
  - ・ 工具と工具、製品と他の製品が接触しないよう、作業環境を設定する
  - ・ 調整や修理に必要な材料/コンポーネントを事前に明らかにしておき、可能な範囲で準備しておく
  - ・ 追加の材料が必要な場合、それらの調達はその義肢・装具と接触していない2番目のチームメンバーが行うことにより、在庫とサプライの相互汚染を回避することができる
  - ・ 表面に凹凸のある義肢・装具については、拭き取りに加え消毒剤の吹き付けが推奨される
  - ・ 軟質の多孔材料は効果的な消毒が難しい為、追加の対策として、義肢装具が消毒されているとしてもその修理対応は最小限とするべきである
  - ・ すべての従事者が手洗いを実施し（石鹸を活用しおおよそ20秒間）、作業場並びに道具の消毒をし、さらに作業後は改めて手洗いを行う
  - ・ 作業毎に新しい使い捨てグローブを使用する。
  - ・ すべての義肢・装具は、作業後速やかに洗浄する
    - ◇ 上記洗浄作業終了後、改めて手を洗う

- 修理や調整作業において
  - ・ 作業を始める前に当該の義肢・装具が適切に洗浄されているか確認する
  - ・ 機械室、吸引システム、電動機器は洗浄が困難であるが、これらのアイテムは、当該エリア及び工具への露出を最小限に抑えるために、最適な方法でクリーニングを行う
  - ・ 可能であれば、扱う義肢・装具ごとに、用いるカービングマシンのコーン、グラインダーのホイール、グラインダーのコーンを定める
  - ・ すべての作業ごとに、事前に道具の消毒を行う
  - ・ 手のみで義肢・装具に触れるようにする（テコの原理を用いようと腕全体や体を使うことは避ける）
  - ・ 使った道具は、作業が終了し当該の義肢・装具の洗浄が終わるまでの間、他者から遠ざけておく
- 作業終了後（当該の義肢・装具が作業場を離れた後）
  - ・ 手を洗う
  - ・ 作業場並びに使用道具の消毒
  - ・ 更なる手洗い
  - ・ 毎日、作業ごとにこれを繰り返す
- これらの推奨はリスクの低い患者に対するものである事に留意してください。ハイリスクの患者や感染患者については、カービングマシンやドラムサンダー等の機器の使用が作業環境へのウイルス拡大を招く恐れがある為、更なる注意が必要になります。

### 臨床業務において

- パンデミックが終了するまで、患者予約数および煩雑な業務を減らす
  - ・ 不要と思われる予約は延期する
  - ・ 必要な患者に対しても、かかわる時間は最小化する
- しっかりとした衛生の実践
  - ・ 患者の来訪前後の手洗い
- 患者の来訪中
  - ・ 握手やハグをしない
  - ・ 安全な距離を取っていたとしても、話は短く切り上げる
  - ・ 義肢装具や患者と接触する際にはグローブを着用する
  - ・ 義肢装具は注意深く扱い、可能であれば義肢装具には手でのみ接触する（機器の支えやテコとして体を使用しない）
- 義肢装具の調整作業において
  - ・ 可能な限りペン、テープメジャー、その他道具は使い捨てのものを使用する
  - ・ 計測器等使い捨てできない道具については、使用前後に消毒を行う



- 義肢・装具に関する作業時
  - ・ 前述の「義肢装具の製作環境下での業務について」にリストされているプロトコルを順守する
  - ・ 義肢装具洗浄後、手洗いをを行う
  - ・ 助手や製作技術者、スタッフによる患者対応や修理作業への関与があり、それが限定された範囲であったとしても、彼らが同様の手順に従っているか確認をする
- 診察室へ戻る前
  - ・ 当該の義肢・装具が完全に消毒されているか、確認を行う
  - ・ 再度、手洗いをを行う
  - ・ 人との距離を保ち、滞在時間を短くし、使用後は手と適合室の消毒を行う事を忘れない
- 消毒と洗浄
  - ・ The US Environmental Protection Agency が提供している消毒剤一覧は、稼働中の施設が洗浄用品を選択する際に有用な情報になると思われる  
([EPA - Disinfectants for Use Against SARS-CoV-2](#))
  - ・ 事前に包装された使い捨ての消毒用ティッシュが手に入らない場合、漂白剤を 10% に薄めた溶剤で代替できる
  - ・ 溶剤を布巾にしみこませ、すべての表面を徹底的に拭き取った後は、使用した布巾は必ず廃棄する
  - ・ 患者が入室する前に、床の表面が完全に乾いていることを確認する
  - ・ 手の消毒剤には少なくとも 60% のアルコールが含まれているべきであり、自家製が可能である([How to Make Hand Sanitizer](#))



## リンク集

- [American Orthotic Prosthetic Association - 新型コロナ Response and Resources](#)
- [Australian Orthotic Prosthetic Association - What-does-it-mean-for-orthotist-prosthetists](#)
- [Disasterready.org - Coronavirus \(新型コロナ\) Learning Resources](#)
- **An introductory video about 新型コロナ with recommendations for persons with disabilities**
  - Original video in Portuguese, with audio description, and versions with subtitles in English and Spanish. Sign language interpreting is for Brazilian Sign Language.
  - Portuguese: [Original in Portuguese with audio description](#)
  - English subtitles: [An introductory video about 新型コロナ with recommendations for persons with disabilities](#)
  - Spanish subtitles: [An introductory video about 新型コロナ with recommendations for persons with disabilities](#)
  
- [Orthopadie Technik -Aktuelle informationen zum thema 新型コロナ](#)
- Orthotic & Prosthetic Educators Network (of America)
- [OPEN 新型コロナ Resource](#)
- [Pacific Disability Forum 新型コロナ Update Human Rights Based Approach Guideline](#)
- Statement from the President and Members of the National Executive Committee of the British Society of Gerontology on 新型コロナ
- Toward a Disability-Inclusive 新型コロナ Response: 10 recommendations from the International Disability Alliance

## 日本語訳

- 佐々木 伸 (ISPO 教育委員会、神戸医療福祉専門学校三田校義肢装具士科 4 年制学科長)
- 唐内 健太 (ISPO 会員、神戸医療福祉専門学校三田校義肢装具士科 4 年制専任教員)

## 日本語訳監修

- 坂井 一浩 (ISPO 理事、人間総合科学大学保健医療学部教授)